



## 《第 64 号》

発行 2015年 6月 20日

編集 特定非営利活動法人

ママサポートえぷろん事務局

発行責任者 帯谷 昭子



### 83点不合格。

グループホームうらら花 施設長 堀井和明

「83点不合格。」はじめての社会福祉士の受験結果です。

私が何故、社会福祉士を受験したかと言うと、目的や高い志があったからでは決してありません。ただ単に理事長の「受けなさい。費用は出してあげるから。」と説得がありその場の雰囲気ですり切れず「受けます。」と何も考えないで軽く返事をしてしまったのです。それから書店で問題集を見たのですが、日本語とは思えない用語や年号・外国人の名前など私のとても不得意な暗記問題が大半を占めているではありませんか！

すぐにその場を立ち去り、私は遠くの蛍光灯をしばらく眺めていました。

どうにか気持ちを切り替え、勉強の準備に入りますが、嵐のような19科目レポートの提出、深夜の間食で体重4kg増、スキー指導員試験、結婚、引っ越し、出産と受験を迎えるまで、目まぐるしく日々は過ぎ受験に臨みました。

結果は一点足りなく不合格・・・私は松任谷由美の「やさしさに包まれたなら」を口ずさんでいました。

「たかが1点、されど1点」情けないやら、悔しいやら、怒り、自暴自棄・・・等々の感情がとめどなく私に襲い掛かってきます。この1点の呪縛に引きずられながらも2回目の受験でどうにか、ギリギリで合格することができ、私は夕焼け見つめて唇を噛みしめていました。

本当にこの資格が自分に必要なのかが分からないまま取得し、まだ資格の持っている効力を実感していませんが、新しい部署でいろいろ経験をさせてくれる機会を与えてくれたことに違いはありません。これを機に「利用者さんの立場で良い支援。」が出来ればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

法人のお金を使わせて受験させていただき理事長はじめ職員、関係者の皆様には感謝しております。ありがとうございました。



### 定期総会終わる！！

5月30日、当法人の定期総会が行われました。平成26年度の事業・収支決算報告、平成27年度の事業計画・活動予算等審議が滞りなく終了しましたのでご報告いたします。



## はじめに

年間シリーズ 第一回

昨年、帯谷さんからこの執筆のご相談をいただき、当団体のいままでの『軌跡』を回想していました。

ほんべつフリーライフは同じ思いを持つ社会福祉士(目指すものを含む)5名が『福祉で夢を語り、新たな福祉の価値を創造し、刺激的な手法で夢を形(資源)にしていける団体』をめざし職場の垣根を越えて集結した職能集団です。今日まで何度も挫けそうになりましたが、みなさんの温かい励ましをたくさんいただき私たちは「前に前に」進んでいくことができました。この場をおかりし、いつも応援していただいた皆様に感謝の気持ちをお伝えし、これからも益々精進していきたいと思えます。また、このような貴重な機会を与えていただいたNPO法人ママサポートえぶろん様、大変ありがとうございました。

私たちが応援してくれる全ての方に、ただただ感謝!感謝!です!



ほんべつフリーライフ 一同

### 1 結成!!本別フリーライフ (H.F.L)

私たちは日々の活動の中でいろいろな方と出会い、いろいろな相談やお話を聞かせていただきました。そのお話の中で、「この子が本別町に帰ってくる時、住む場所と仕事ができる場所があればいいのに・・・」と言うお話をよく聞きました。私たちは、「社会福祉士」として一人一人のニーズに耳を傾け、そのニーズを形にしていきたいと思い活動を決意しました。

かねてから多くの方にご相談を受けていた『この思い』を、行政、民間、地域の方と一緒に本来あるべき福祉の姿として実行することが、これからの本別町の福祉のため、町民のためになるのではないかと考え、平成24年6月、任意団体「本別フリーライフ (H.F.L)」として立ち上がることになりました。

### 2 福祉を身近に!! (made in ホンベツ)

結成に伴い私たちは平成24年度から平成26年度の3年にかけて「第1期本別フリーライフ計画書」を作成し計画に沿った活動を行いました。私たちは、あくまでも「ローカル発信(=本別発信=made in ホンベツ)」にこだわる活動を中心とし、地域密着の草の根活動を実践してきました。特に好評だったのは「介護劇水戸黄門」です。劇としての完成度は低くドタバタの内容です(ちなみに私は町娘です)。ですが、地域の皆さんには大うけで劇の後

には「楽しく介護保険のことがわかりました」と言っていただき身近に福祉を感じてもらえた思い出が今でも記憶に残っています。そのほかに、本別町では毎年12月の障がい者週間にあわせ障がい者週間記念事業を実施しています。そこで私たちは、障がいのある方と一緒にロビーカフェ「チャレンジカフェ」をオープンさせ障がいのある方々と就労チャレンジを行いました(現在の地域食堂の前身として行ったものです)。こうした草の根活動により一つ一つの声を形にし福祉を身近に



勇足公民館まつりに参加した時の劇

感じながら、一つ一つの声を形にするため『障がい者「フリーライフ」推進プロジェクト』を実施することとしました。

### 3 声を形に!! (障がい者「フリーライフ」推進プロジェクト開始)

平成 25 年度、私たちの草の根活動の高まりから地域の方からいろいろな声をお聞きするようになりました。特に①障害のある方の居住、②新たな就労の場の確保、③身近な相談支援、④日中活動の在り方(社会的居場所の確保)についてです。

この「声を形」にするには、社会事業と福祉企業のどちらにも関連する要素が強いことから、弾力的で多面的な組織をつくり検討していくことが必要と私たちは考えました。そこで私たちは、地域の有志の方々にお声をかけ、本別フリーライフメンバー5名に7名を加え『障がい者「フリーライフ」推進プロジェクト』を立ち上げ平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの1年をかけて「声を形」にするための検討を行いました。プロジェクトでは、①障害のある方の居住、②新たな就労の場の確保、③身近な相談支援、④日中活動の在り方(社会的居場所の確保)に加え⑤法人化の検討も含めた内容を話し合いました。7回のプロジェクト会議と2回の視察研修、5回の資格習得に向けた研修参加を実施。最後に報告書を作成しました。当時を思い返すとフリーライフメンバー5人で毎日いろいろなことを話し合い、サービスを必要とされる方々のお話しをお聞きし、私たちの「基本理念」に挙げている『誰もが自由に豊かな生活を送れるまちづくり』をめざし活動をしていました。今でもその思いは変わりません。今は法人化したことで私たちを応援してくる方々が増えました。これからも私たちを必要としてくれる方々、私たちを応援してくれる方々の期待に応えていけるように「前に前に」進んでいきます。



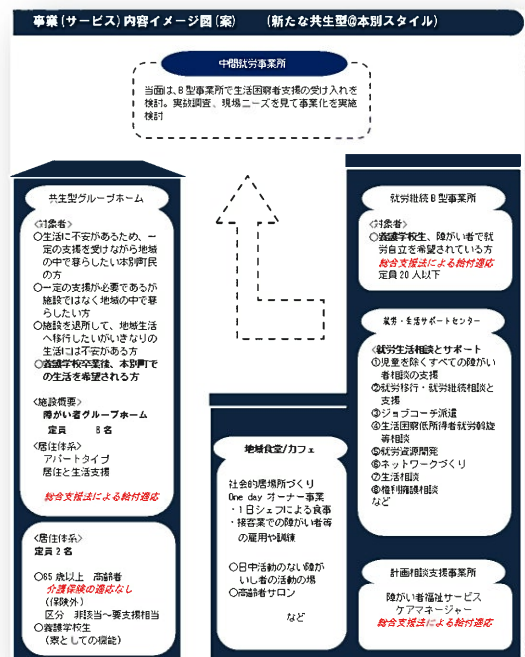
H26 年 3 月  
プロジェクトで作成した報告書

### 4 最後に

「思い」や「声」を形にするとき、私たちはとても小さい存在で一人では何もできず、挫折してしまうものです。福祉実践では、「福祉を必要とする人」「福祉を提供する人」「福祉を応援し支えようとする人」など、いろいろな人のつながりが一つの輪となって形になっていくものと考えています。

私たちは本別町でいろいろな人に支えられ、つながり、また新たな福祉実践へとつながっていきました。福祉とはクリエイティブな活動であると思います。だからこそ、思いをみんなできつなげ、『誰もが自由に豊かな生活を送れるまちづくり』ができるのだと思います。

みんなの思いを「前に前に」進めていきましょう。



プロジェクトで検討されたサービス(案)

# いろは坂

## わがままな目

暑くなってきたので、髪を短くしようと美容院へ行った。

「いらっしゃいませ」若いおニイさんが出迎えてくれる。そのとたん、とんでもない言葉が私の口からでた。

「あー、すみません。その服、取り替えてもらえませんか」

白と黒の横縞のTシャツを着ていた彼は、目を丸くした。

「すみません。縞模様が苦手なんです」私は、目を床に向けながら小さな声で言った。

数年前から、これだけはと自信があった目の様子がおかしくなつた。強い光や、縞、水玉などの模様に過剰に反応するようになってしまったのだ。特につらいのが縞模様だ。一センチ幅の白黒が最悪だ。頭がくらくらして正視できない。胸のあたりが気持ち悪くなる時もある。

## 広井 数子

好きなテレビ番組にチャンネルを合わせても、司会者が縞の洋服を着ていると、「あー、だめだー」と、見るのをあきらめ始める。友だちと外でお茶を飲んでいても、目の前に縞模様が現れると、席を替わってもらう。まったく困ったものだ。

眼科へ行くと、「ま、老化現象ですね。ピントを調節する筋肉が衰えたんですよ」と、医者に軽くあしらわれた。ふーんと納得するしかない。

「少し短めにしましたが、いかがですか」

黒いシャツに着替えさせられたおニイさんが、鏡の中で言った。笑っていた。



# 賛助会員募集

賛助会員の皆様へ

特定非営利活動法人ママサポートえぷろんは、会員の皆様の会費と事業収入で運営しています。法人の理念を理解し、応援していただける賛助会員を広く募っております。

会員の皆様には、年4回の会報誌ぽけっとをお送りしています。

賛助会員の会員登録は、翌年の会費の納入がなされませんと自動的に会員ではなくなります。今年度も賛助会員の継続をよろしくお願い致します。

賛助会員年会費は1口1,000円です。お声をかけて下されば集金にもお伺いしますのでお気軽にお電話下さい。

問い合わせ先 Ⅲ0156-25-6000 (デイホームひなたぼっこ内事務局)



NPO 法人

ママサポートえぷろん

会 員 数

- ・個人会員 35人
- ・利用会員 21人
- ・賛助会員 52人

平成27年6月20日現在

特定非営利活動法人(NPO)

ママサポートえぷろんは民

間非営利活動団体です。

会員の皆様の会費と寄付に

より運営しております。皆

様の支援をよろしくお願い

します。